



NEWSLETTER No. 45

# Organic Geochemistry

The Japanese Association of Organic Geochemists

日本有機地球化学会

2007. 6. 6

## Announcement

### 第 25 回有機地球化学シンポジウム (2007 年金沢シンポジウム) ファーストサーキュラー

世話人 長谷川 卓  
(金沢大学大学院自然科学研究科)

会員の皆様

新緑の目に鮮やかな頃、会員の皆様には益々御清栄の段お喜び申し上げます。このたび、2007年有機地球化学シンポジウムを金沢市の金沢大学サテライトプラザで開催させていただくことになりました。7月末の金沢は、梅雨明け直後と重なり、暑さが厳しいながらも晴れ上がった夏空が期待できます。会場は金沢の台所・近江町市場や金沢城に近接しており、名勝兼六園までも徒歩10分程度という、市内中心部の最高のロケーションにあります。情緒ある落ち着いた風景を御堪能いただく一方で、是非白熱した学術討論をお願いいたします。メリハリの効いたシンポジウムで皆様に御満足いただけるよう、精一杯準備させていただきます。多くの皆様の御参加を心よりお待ちしております。

記

#### 1. 日程

- 7月25日(水)： 運営委員会
- 7月26日(木)： シンポジウム・総会・懇親会  
(\*金沢市・卯辰山・松魚亭を予定)
- 7月27日(金)： シンポジウム

#### 2. 会場

金沢大学サテライトプラザ  
〒920-0913 金沢市西町3番丁16番地  
金沢市西町教育研修館内

(以下のウェブサイトを御参照ください)

[http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad\\_koho/satellite/](http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad_koho/satellite/)  
会場は、金沢大学のメインキャンパスではありません。旧市街にあります(旧城内キャンパスの理学部近くです)。宿泊先を御予約の際は御注意ください。

#### 3. 開催までのスケジュール(予定)

参加・講演申込受付開始 5月21日(金)  
講演申込および講演要旨〆切 6月22日(金)  
参加申込(事前登録)〆切 7月11日(月)  
セカンドサーキュラーアップ予定 7月初旬

#### 4. 参加申込(登録)

可能な限り事前申し込み(7月11日〆切)をお願いします(講演要旨印刷や名札作成等の準備の都合上)。懇親会は事前受付のみで締め切らせていただき原則として当日受付はいたしません。

学会ウェブサイト上、又は本ニュースレター号末の申込書を電子メール(直接メールにコピー&ペーストしてお使いください。添付書類にしないようお願いします。申し込み専用アドレスがありますので御注意ください)、郵送、また

はFAXにてお申し込み下さい。どれをお使いいただいても結構ですが、可能な限り電子メールでの申し込みをお願いします。

## 5. 宿泊

宿泊は参加者各自で御予約ください。会場は市内中心部の武蔵地区にあり、交通至便です。共済組合関連施設としてKKRホテル金沢（会場から徒歩4分）と兼六荘（会場向かい）が至近距離にあります。ホテルや飲食店が最も集中する片町・香林坊地区からも徒歩圏内（徒歩なら10-15分。バスで2停留所程度。バスは至便）です。駅前からもほぼ同距離にあります。

## 6. 連絡先

〒920-1192 金沢市角間町金沢大学大学院自然科学研究科・自然科学2号館（理・地球）  
長谷川 卓  
TEL：076-264-6508， FAX：076-264-6545，

E-mail: jh7ujr@kenroku.kanazawa-u.ac.jp（諸連絡用） taka@earth.s.kanazawa-u.ac.jp（学会参加申込，講演要旨送付用） できる限り電子メールでご連絡くださるようお願いいたします。

## 7. 発表形態

◆ 発表は口頭発表とポスター発表で行います。口頭での講演時間は1件あたり質疑応答も含め20分を予定しています。

◆ 使用可能機材は、原則として液晶プロジェクター1台とOHP1台を用意いたします。スクリーンは1基あります。PCはPower Pointが使用できるものを準備します。バージョンは、Windows XPです。液晶プロジェクターを使って発表される方は、Windows版のPPTファイルをCDまたはフラッシュメモリ等にコピーして持参し、セッション開始前にPCにコピーしてください。なお、Mackintoshなどで、本人がPCを持参し使用される場合は各セッション開始前に会場係までご連絡ください。

◆ 推奨するポスターサイズは横83cm×縦120cmです（A0で縦1枚）。ただし、貼り付けるボードのサイズは横90cm×縦180cm（ボード上面の高さは180cm）ですので、この範囲ならば差し支えありません。なお、昨年と同様、ポスター

のショートプレゼンテーションは行いません。

## 8. 発表要旨

◆ 講演，ポスターとも，1題につきA4版1頁以内で作成してください。原則として電子メールに添付して下記へ送付ください。

E-mail: taka@earth.s.kanazawa-u.ac.jp

◆ 電子ファイルの標準はWord2003です。カラー図を使用希望の方はご相談ください。

◆ 要旨は，下記の形式を目途として作成してください。または過去のシンポジウムの要旨集を参考にしてください。

余白（上30mm，下30mm，左右20mm程度），行数（本文36行程度），文字の大きさ（11ポイント程度），1・2行目はタイトルと発表者氏名（センタリング，発表者の氏名の前に○，連名は・で区切り，所属は名前の後にカッコ書），3・4行目は英文タイトル・氏名・所属。

## 9. 参加費・懇親会費

参加費は、シンポジウム受付時に徴収します。シンポジウム開催期間におけます昼食等は特別こちらで御用意致しませんのでご注意ください。昼食等のお食事は付近の御食事処にて各人でお取りいただけますようお願い申し上げます。近辺の御食事処としましては徒歩5分程のところ、近江町市場\*等もございますので、そちらの方も御参照下さい。

\*<http://www.ohmicho-ichiba.com/>

参加費（要旨集）

正会員 2,500円 非会員 4,000円

懇親会費（懇親会は松魚亭\*で行う予定です）

\*[http://www.asadaya.co.jp/page.php?cid=shogyotei\\_top](http://www.asadaya.co.jp/page.php?cid=shogyotei_top)

正会員 7,500円 学生 4,500円

（学生の皆さんの参加費は正会員扱いとしますので、参加費込みで7,000円です）

## 8. その他

特別セッションを企画中です。詳細が決まりましたらメーリングリストで御連絡申し上げます。

## People

若手研究者の紹介コーナー「People」です。

### 有機地球化学との関わり

北海道大学 大学院理学研究院 自然史科学部門  
高野 淑識 (学振・特別研究員)

若手研究者の一人として、私のこれまでの有機地球化学との関わりを紹介します。私は、学生時代から何度か移動(異動)を経験しています。各機関を渡り歩く研究生活でもっとも有意義だったことは、新しい環境での新しい出会い、そして、それらの方々との議論の共有です。同じ分野、あるいは比較的近い分野であっても、研究対象へのスポットの当て方、時空間スケールの捉え方、現象の見方、微妙な実験作法の違い、など新鮮な感覚を得ることが多いものです。言語の壁が低い欧米の研究者らは、そのような移り渡る過程をむしろポジティブに捉える人も多いように感じます。海洋調査や陸上のフィールド調査では、入手機会の難しい研究試料を採集すること、現場での記載作業を行なうことが最優先です。それに加えて、異分野の研究者、異国の研究者らと共有する時間からは、将来プラスに働く緊張感、文献では知りえない(学術的、文化的、個人交流的)発見が得られることがあります。

さて、私が入学した筑波大学では、「物質の進化」(日本化学会編、1980)という専門書との出会いもあり、化学系の下山 晃 教授(現・高知学園短期大学長)から指導を受けました。南極隕石に関わられていた下山先生の「隕石は、宇宙からの手紙である。」というフレーズは、いまでも印象に深く残っています。初めて発表した国際学会では、緊張しながら Prof. Stanley Miller (UCSD)に接見しました。その後、横浜国立大学に進み、化学生命工学講座の小林 憲正 教授から指導を受けました。種々の成分を含む高分子量複雑有機物の分子進化に関する室内模擬実験等を行なう傍ら、実際の地球極限環境でおきている、ある化学現象を記載・比較する必要性を感じていました。その頃、海底熱水系における生物・地質相互作用の解明に関する国際共同研究 (Archaeon Park

Project, 2000年~2005年)に加わる好機に恵まれました。深海底でおきている地球内部エネルギーを発散する光景は、衝撃的です。それから毎年のように研究航海に参加してきました(写真)。ちなみに私自身は、船舶の動揺にからつきし弱く、いまでもアネロン(効き目の強い酔い止め)に毎回お世話になっています。

2003年に学位を取得した後、産業技術総合研究所・地質調査総合センターの海洋資源環境研究部門に赴任しました。丸茂 克美 主任研究員や川幡 穂高 グループ長(現・東大海洋研教授)から、有益な助言や励ましを頂きました。地下生物圏の研究や深海調査を続けるうちに、南マリアナで「しんかい 6500」に搭乗する機会もありました。研究所でミッションの決まったトップダウン型研究を進めながら、研究以外の実務の重要性も学べました。



Thomas G. Thompson 号(ワシントン大学海洋学部)での甲板作業中、2004年3月、南マリアナ洋上にて。

2005年から、北海道大学の有機地球化学グループ(現・地球システム進化研究グループ)に赴任しました。鈴木 徳行 教授、沢田 健 講師、渡邊 剛 講師らで構成される講座です。私は、地質学的セッティングに起因される地球表

層の環境変動、地下生物圏の発達に関する研究を主に進めてきました。これまでに海洋のプレート境界付近や地殻均衡の変動域で観察してきた水塊構造・堆積相・生物相は、有機地球化学的にも興味深く、調べる価値があると考えています。

私たちの世代には、博士課程を修了した後に、すぐにテニユアな職位に就くことがなかなか難しい現実があります。逆に見方を変えれば、そのモラトリアムの期間は、いろいろな経験を積める好機であると捉えることもできます。この原稿の執筆を推薦して下さった方からは、(研究をやっていく上で)諸般の事情からネガティブな状態になることもあるが、それを楽しめるくらいの度量が必要だよ、とエンカレッジされたのを良く覚えています。

会員の皆さま、これからもどうぞよろしくお願ひ致します。今後ともご指導いただければ幸いです。

### 自己紹介と研究紹介

独立行政法人 産業技術総合研究所  
環境管理技術研究部門 山田 奈海葉

過去の People を拝見すると、子供の頃から無類の科学好きだったなど、研究者になるべくしてなったような皆さんが顔を並べていらっしゃいますが、私は子供の頃、大の理科科目嫌いでした。今、私が研究者として仕事をしていることは、正に奇跡だと思うとともに、これまでに出会ってきた多くの方々から受けた刺激、教育、指導、協力等なくてはありえないことだと感謝しています。

私が学部の卒業研究でお世話になったのは、高知大学の鈴木聡 助教授(現、愛媛大学 教授)です。当時、鈴木助教授は、名古屋大学の田上英一郎 教授と溶存態タンパク質に関する共同研究が行われている最中でした。田上教授は、溶存態有機物として物性的には易分解性と考えられていたタンパク質分子が海域や深度に関係なく残存・蓄積しており、そのうちのひとつが緑膿菌の膜タンパク質のひとつであるポーリントタンパク質であることを明らかにされました。共同研究のきっかけは、鈴木助教授がこの技術は、その要素技術の開発、有効性評価、

魚病細菌のポーリントタンパク質に関する研究を行っていたことだと聞きました。私は、この中で、魚病細菌のポーリントタンパク質が溶存態タンパク質として挙動するかどうかに関して、卒業研究を行いました。卒業研究終了後は、田上教授の研究室へ進学し、修士および博士課程において、溶存態タンパク質の化学的性質から海水中での挙動や起源について考察する方向の研究を進めました。その後、名古屋大学の北川浩之 助教授に受入教官になっていただき、日本学術振興会 特別研究員(PD)として、溶存態タンパク質の寿命に関する研究を進めました。所属が変わりながらも、合計8年間も「溶存態タンパク質」という同じテーマで研究を進めることができ、ひとつのテーマを深く掘り下げる学術的基礎研究の楽しさを学ぶことができました。

現在は、産業技術総合研究所において、「二酸化炭素の海洋隔離技術に対する環境影響評価」に関する研究を進めています。二酸化炭素の海洋隔離技術とは、発電所などの排出源から分離・回収した二酸化炭素を海洋へ隔離することで、大気中の二酸化炭素濃度の上昇を抑制しようとする地球温暖化対策技術のひとつです。



様々な濃度の二酸化炭素で中深層海水(インキュベータ内下段)を平衡化している様子。経時的に物質循環の駆動に関わる微生物群集の活性を調べている。経済性評価に比べて、国際的・社会的合意を得

るために必要な環境影響評価に対する知見が格段に不足しています。私が環境影響評価の対象としている海洋隔離技術は、移動船からパイプラインを通じて海洋中深層へ二酸化炭素を溶解・希釈する移動船方式です。海洋中深層は海洋表層と異なり、植物プランクトンを始点とする古典的食物連鎖を欠き、溶存態有機物を中心とした微生物食物連鎖が物質循環を駆動しています。現在、この点に着目した環境影響評

価を行うため、物質循環の駆動に深く関わる微生物群集の生理活性に関する既知の事象(細菌生産速度、酵素活性、有機物分解速度など)に対する二酸化炭素の影響をモデル実験によって調べています。また、海洋中深層の物質循環過程や生態系には、まだまだ未知の部分が多いことも確かであり、それらを明らかにしていくことも重要だと考えています。

## Information

### 有機地球化学賞(学術賞)2007年度受賞候補者推薦の募集

#### 有機地球化学賞(学術賞) 2007年度受賞候補 選考委員会 委員長 平井 明夫

有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

記

**候補者の資格:** 有機地球化学の研究分野で顕著な学術業績をあげた本会会員。

**募集の方法:** 本会会員の推薦による(自薦他薦を問いません)。

**推薦の方法:** 下記の事項をA4サイズ用の紙に任意の様式で記入し、書留で郵送すること。

- 1) 候補者の履歴(学歴、大学卒から。職歴、その他)

- 2) 推薦の対象となる研究題目および推薦理由
- 3) 研究業績目録(推薦の対象となる主要な論文10編)
- 4) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日: 2007年6月14日(木)(当日消印有効)

提出および問い合わせ先:

〒151-8565 東京都渋谷区幡ヶ谷1-31-10

帝国石油(株)技術評価部

平井明夫 電話: 03-3466-1247,

ファクシミリ: 03-3468-3509

E-mail: a\_hirai@teikokuoil.co.jp

「有機地球化学賞(学術賞)の過去の受賞者についての情報は、日本有機地球学会ホームページでご覧下さい。」

### 研究奨励賞(田口賞)2007年度受賞候補者の募集

#### 研究奨励賞(田口賞)2007年度受賞候補 選考委員会 委員長 三瓶 良和

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。

つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

記

**候補者の資格:** 生年月日が1973年4月2日以降で、有機地球化学、石油地質学、堆積学の3分野のいずれかで優れた研究を行い、将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限り

ません。

**募集の方法:** 本会会員の推薦による(自薦他薦を問いません)。推薦の方法: 下記の事項をA4サイズ用紙に任意の形式で記入し、郵送またはPDFファイル等のE-mail添付送付の事。

- 1) 推薦理由及び研究題目
- 2) 研究業績目録
- 3) 研究論文の別刷り又はコピー
- 4) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日: 2007年6月14日(木)(当日消印有効)

提出及び問い合わせ先:

〒690-8504 松江市西川津町1060

島根大学総合理工学部地球資源環境学科  
三瓶 良和 電話：0852-32-6453、  
ファックス：0852-32-6469、  
E-mail：sampei@riko.shimane-u.ac.jp

これまでの受賞者と研究題目については、  
<http://www.ogeochem.jp/prize1.htm#taguchisho>  
(日本有機地球化学会 HP「学会概要」) をご  
覧ください。

## ROGへの投稿原稿を募集中！！

### Researches in Organic Geochemistry 編集委員長 奈良岡 浩

ROG (Researches in Organic Geochemistry)  
は本学会の学会誌で有機地球化学に関連する論  
文を掲載し、年1回発行しています。昨年末に  
Vol. 21を発行し、現在、Vol. 22に向けて原稿を  
募集中です。ROGの現在のカテゴリーとしては、  
1) 論文 (article)、2) 短報 (note)、3) レター  
(letter)、4) 技術論文 (technical paper)、5) 総  
説 (review)からなり、最新結果から古くからの

問題まで幅広く募集中です。博士論文や修士論  
文の一部の発表も歓迎いたします。ROG Vol. 21  
の巻末の投稿規定を参考にされて、ご投稿をお  
願います。Vol. 22に掲載を希望される方は6  
月末日までにご投稿下さい。また、取り上げて  
もらいたい総説・技術論文などの要望もお寄せ  
下さい。PDFファイルによる電子投稿も受け付  
けており、皆さんの積極的な投稿・ご意見をお  
願います。

## 2007年年会費納入のお願い

会員の皆様には日頃よりご支援いただき、誠  
にありがとうございます。事務局から2007年の  
年会費の納入についてご協力をお願いいたしま  
す。年会費は一般会員 2000円 学生会員 1000円  
となっております。下記郵便口座までお払い込  
みをお願いいたします。ご自分の最終納入年度  
がわからない等ご不明の点がございましたら、  
どうぞ遠慮なく事務局までお問い合わせくださ

い。  
また、職場や自宅を移動された方は名簿作成と  
郵便物配布のために**新しいご住所、電話番号、  
ファックス番号**を下記までご連絡下さい。また、  
E-mail アドレスをお持ちの方は、ニュースレタ  
ーのメール配信のため、差し支えない限り  
**E-mail アドレス**を事務局までお知らせいた  
くようお願いします。

発行責任者 有機地球化学会会長 田上 英一郎  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 環境学研究科  
Phone: 052-789-3470, Fax: 052-789-3436  
日本有機地球化学会事務局  
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1  
東京大学 大学院 理学系研究科 地球惑星1号館  
Phone: 03-5841-4524 Fax: 03-5841-4555  
e-mail: secre06@ogeochem.jp  
郵便口座 00110-7-76406 (名義人 日本有機地球化学会)  
編集者 早川 和秀 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)  
奥田 知明 (慶應義塾大学理工学部)  
e-mail: news@ogeochem.jp

日本有機地球化学会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。  
アドレス：<http://www.ogeochem.jp/>

## 第25回有機地球化学シンポジウム（金沢シンポジウム）

参加申込書（6月22日必着）

発表を，（1）行います （2）行いません（いずれかに○）

1. 氏名

2. 所属

3. 連絡先の所在地，電話，FAX，E-mail

4. 発表題目

5. 発表形態

（1）口頭 （2）ポスター （3）どちらでも可（いずれかに○）

6. 使用機器（口頭発表の場合いずれかに○）

（1）液晶プロジェクター （2）OHP （3）その他（ ）

7. 発表者氏名（所属）（連名の場合発表者に○をつけて下さい）

8. 発表に関する希望（発表日時，発表順など）

9. 懇親会に，（1）参加します （2）参加しません（いずれかに○）

10. 申込書の送付先（申し込みは郵送，FAX，E-mailのいずれでも可です。）

〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学大学院自然科学研究科2号館 理学部地球学科事務宛 長谷川 卓

E-mail : taka@earth.s.kanazawa-u.ac.jp, TEL : 076-264-6508, FAX : 076-264-6545